

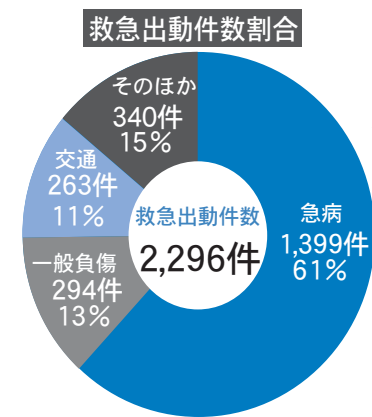
また、時間帯別でみると、最も多いのが午前八時から十時までの二百七十三件で、午後二時から午後四時までの二百六十五件、午後六時から午後八時までの二百六十件と続き、午前八時から午後八時までの十二時間に千五百五十四件と全体の七割近くを占めています。町別では、網野町が最も多く六百三十三件、峰山町五百七十七件、久美浜町

平成十九年中の救急件数は二千二百九十六件で、前年に比べ三十五件減り、最も多い出動件数を記録した平成十七年から二年連続減少しました。事故種別ごとでは、「急病」が千三百九十九件と全体の六割を占め、続いて「交通事故」二百六十三件、「一般負傷」二百九十四件、そのほか「転院」「自損」「労災」「加害」などあわせて三百四十件となっております。月別に見ると、八月が最多の二百九十八件、次いで一月の二百一十一件、三月の百九十九件、十一月の百九十七件と続き、最も少なかった六月が百五十四件でした。

出動件数わずかに減少



【救急】
2,296件



1日平均出動件数
6.29件

町別出動件数

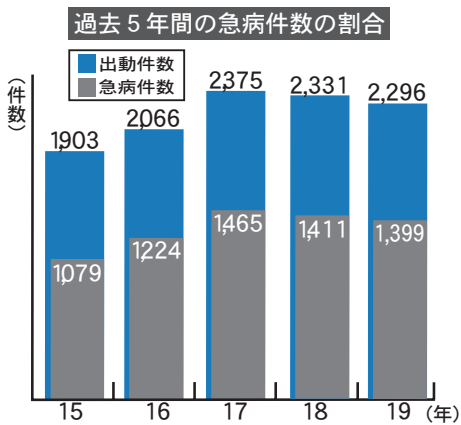
峰山町	517件
大宮町	291件
網野町	633件
丹後町	259件
弥栄町	191件
久美浜町	404件
管外	1件

四百四件と続きます。平均すると、一日あたりの出動件数は六・二九件、一月あたりの出動件数は一九一・三件となります。搬送人員は、二千七百七十五人で、前年に比べ七十人減少しました。峰山消防署（本署）がその半数近くの九百四十七人を搬送、網野分署が五百八十六人、久美浜分署四百人、竹野川分署所二百四十二人と続きます。年齢別では、六十五歳以上の高齢者のかたが千二百六十二人と全体の六割近くを占めました。今後とも、関係機関とのより一層の連携強化も含めた救急医療体制の充実をめざします。

平成十九年中に指令室で取り扱った災害などの総受信件数は、三千八百二件で、わずかですが前年に比べ七五件増加しました。火災や救急などの災害出動件数が減少したのに反し、一一九番等の受信件数は微増を続けています。携帯電話などからの通報も全体の約十五パーセントを占め、いち早い災害場所の特定が今後ますます重要になってきます。

増え続ける一一九通報

【通信】
3,882件



救急救命士
日下部 宣仁

麻疹(はしか)について



みなさん、今回の一口メモは春先に多い麻疹(はしか)についてお話します。麻疹は、非常に感染力が強く、空気感染(空気中の病原体を吸うこと)で感染・飛沫(ひまつ)感染(感染者のくしゃみ・咳によって感染)・接触感染(感染者と直接・間接的に接触すること)で感染。とさまざまに感染経路があります。三百度程度の発熱やかぜ症状ではじまり、数日間発熱が続いたあとに一旦熱が下がって再び三九度以上の高熱とともに発疹(はしん)が現れます。発疹はその後黒ずんだ色が残りますが、これもだいたい一か月くらいで消えます。また、発症中は、下痢になることもあります。下痢は、体内の水分が多く排出されるため、特に乳幼児の脱水症状に気をつけましょう。学校保健法により、熱が下がって三日を経過するまでは登校(登園)できません。高熱となって体力を消耗しやすいので、十分な休養と水分・栄養を補給しましょう。

住宅用火災警報器などに関するお問い合わせは

京丹後市消防本部予防課 (TEL 62-5119) または、最寄の消防署まで。

消防統計2007

「うるおい安全都市」にむけて



消防長
堂田 孝二

北丹後大震災発生から80年目を迎えた昨年は、京丹後市を会場に大規模な京都府総合防災訓練が行われました。近年日本各地で地震が頻発するなか、能登半島地震や新潟中越沖地震の発生は記憶に新しいところですが、ここ京丹後市においてもこうした大規模災害発生に備え、しっかりとした対策が求められるところです。

消防本部といたしましても、より多くの市民のかたに幅広く防火・防災に関心をもっていただけるよう、住宅用火災警報器の普及をはじめとした住宅防火対策の推進や一昨年から制度化した「救マーク」制度のさらなる普及などを基本施策とし、関係機関との一層の連携強化を図りながら市民の真の「安全・安心」を守るため、一丸となって取り組んでまいります。

身近な出火原因



平成十九年中に発生した火災は二十四件で、前年に比べ八件減少しました。特に、建物火災が七件減少の十七件となり、焼損面積、損害額ともそれに伴い減少しました。火災が多く発生した月は八月、十二月で、それぞれ六件でした。また、時間帯別では午前八時から午後六時までの間に全体の約七割となる十七件が発生しています。原因別では、「こんろ」、「配線器具」、「放火・放火の疑い」が各三件、「かまど」、「ストーブ」、「灯火」、「たき火」が各二件、調査中を含みその他の原因によるものが七件で、「こんろ」や「配線器具」など身のまわりにある器具などを正しく取り扱うことが火災予防につながります。

【火災】
24件

町別火災発生状況

町	件数	火災種別				焼損棟数				損害見積額(千円)
		建物	林野	車両	船舶	全焼	半焼	部分焼	ぼや	
峰山町	4	2					2		1,571	
大宮町	4	4					1	1	289	
網野町	5	5				1	2	2	4,658	
丹後町	3	1	1		1	3	1	1	12,025	
弥栄町	2	1		1					1,625	
久美浜町	6	4			1	1	2		14,098	
合計	24	17	0	2	1	4	6	3	34,266	

- 火災原因
- こんろ 3件
 - 配線器具 3件
 - 放火・放火の疑い 3件
 - ストーブ 2件
 - そのほか 13件
- ※ ガスこんろ、電気こんろなど

また、消防法の改正により一般住宅への設置が義務付けられている「住宅用火災警報器」についても、早期に火災の発生を知らせ、安全に避難することで死傷者を減らせることから、一日も早い市内の全住宅への設置が求められるところであります。

水難事故が大幅増加



【救助】
45件

平成十九年中の救助出動は四十五件で、前年に比べ三件減少しましたが、遊泳中に沖へ流されるなどした水難事故が、全体の約三割となる十四件と多く発生しました。また、交通事故については全体の半数以上を占める二十三件が発生、延べ九十人の活動により十八人を救助しました。

すべての住宅に必要です
住宅用火災警報器
新規住宅は平成18年6月から
既存住宅は平成23年6月までに
住宅火災による死亡原因の7割が「逃げ遅れ」によるものです。京丹後市火災予防条例に基づき設置をお願いします。
悪質な訪問販売などには、十分にご注意ください。